

番号	氏名	抱負
1	奥田 保男	私は独立行政法人放射線医学総合研究所の<医療情報>、<医療被ばく研究プロジェクト>、<福島復興支援本部>に所属し関連した研究と業務に従事しています。本学会は今後、国際化など大きく変革することが予測されますが、そんな中、国際的環境が身近にあり、かつ医療機関外の環境にいる研究者としての考え方や視点が、本学会には必要になるのではないのでしょうか。本学会に課せられた責務は、関連団体との連携を含め、放射線技術学に関する研究や知識・技術の交換と共有など、学術の進歩発展に寄与することと考えます。そこで、国際機関との連携も含め、医療被ばくなど放射線領域における研究基盤の構築、および情報共有など次世代への利用性を含めた研究などを進め、学会の発展に寄与したいと考え立候補させていただきます。
2	隅田 博臣	理事選出馬にあたり3つのKey Words「先見力」「人材育成」「情報発信」を示し抱負を述べます。私は放射線技術学について胸襟を開いて真摯に将来を議論できる学術団体理事の一員となれるよう努力したいと考えております。そのために日本放射線技術学会に対し「何が求められているか」。また、これまで「何ができていないのか」を議論し、世界の学術団体として研究成果が発信できるよう公平無私に頑張りたいと思います。とりわけ、教育(研究人材の育成)は重要と位置づけ、各分科会、国内の関係団体及び大学院大学の教官と連携し、科学的に研究が行える人材の育成と、臨床に奉仕できる研究成果発信のため学術団体の理事として貢献したいと考えております。最後に、私は先人が目指した放射線利用への挑戦の志を受け継ぎ日本放射線技術学会の会員の皆さんと情報共有し、学会の発展に貢献したいと思います。
3	石風呂 実	微力ではありますが、学術研究を進めるためには会員が純粋に疑問を追求できる環境創りが必要とされたいと考えます。また、本学会参加を更に活性化するためには論理的思考や問題解決能力を養い、コミュニケーション能力を高めるなどを重点的に活動して行いたいと思います。
4	宮地 利明	本学会理事に立候補しましたのは、育てて下さった日本放射線技術学会に恩返し、次世代への架け橋になるためです。理事に選んで頂いた際は次の事項を念頭において責務をまっとうする所存です。1)人材育成:学会において最も重要な財産は間違いなく人であり、学会の研究・教育事業を通して如何に人を育てるかが、その学会の未来を決めることになると思います。2)学問体系の確立:世界で唯一である「放射線技術学」をさらに大きく高い学問に育て上げます。3)国際性の向上:国内外の学会要職を歴任した経験を活用して「放射線技術学」の素晴らしさを世界中に発信します。
5	小笠原 克彦	日本放射線技術学会は、世界の中でも放射線技術科学を牽引する素晴らしい学術団体です。その学術団体の中で、この2期4年間、倫理規定・倫理ガイドライン作成特別委員会担当理事、北海道会担当理事(北海道部会部会長)を経験させて頂き、第42回秋季学術大会大会長、編集委員会副編集委員長、として活動いたしました。引き続き、研究・地域・教育の観点から、診療放射線技師免許を持つ大学教員として、先輩が確立された日本放射線技術科学を更に発展のために、頑張りたいと考えております。何卒よろしく願いいたします。